



## AIR断震 倶楽部通信 55

世界初! 空気ので家を浮かす!  
揺れない家が家族を守る



「究極の地震対策住宅」の株式会社三誠AIR断震システムです。  
株式会社三誠AIR断震システムは、株式会社三誠のグループ会社です。  
両社の担当者と名刺交換させていただいた方々に配信しております。  
※このメールはテキストメールでもご覧になれますが、HTML形式で配信しております。

## 千島海溝地震と遠地津波の脅威 カムチャツカ半島地震から学ぶ防災

### 震源は千島海溝の北端 約 400 年周期で巨大地震が発生

7月30日8時25分ごろ、ロシア・カムチャツカ半島沖でマグニチュード8.8の巨大地震が起き、沿岸には高さ5～6mの津波が押し寄せました。震源は千島海溝の北端に位置し、日本の太平洋岸一帯には津波警報が発令されました。津波は20cm～140cmでしたが、震源が遠い地震でも影響を受けることが改めて示されました。この10日前の7月20日にはマグニチュード7.4の前震、8月3日にはマグニチュード6.8の余震が起きています（下図）。

千島海溝は世界有数の地震多発地帯で、1737年には推定マグニチュード9.3の地震が発生し、60mを超える津波の痕跡も残されています。また、1952年11月5日には、マグニチュード9.0の巨大地震（カムチャツカ地震）が発生しています。この地震は、20世紀以降世界で発生した地震では、6番目に規模の大きいものです。千島海溝、特に北海道東部から根室沖では、およそ400年周期で巨大地震が発生しており、巨大地震の「満期」にあるとされ、専門家は東日本大震災級の地震が起きても不思議ではないと警告しています。

#### カムチャツカ半島地震の震源



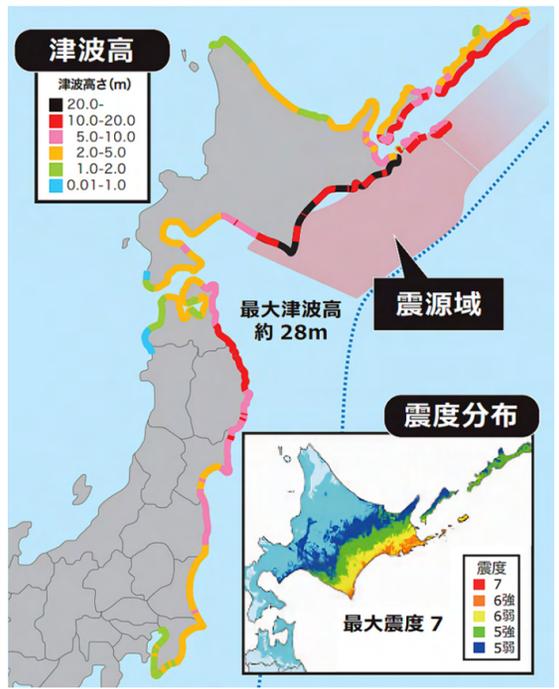
出所：アメリカ USGS などのデータを元に作図  
注：マグニチュード (M) は米地質調査所 (USGS) による

### 遠隔地の地震でも安心できない 揺れは小さくても津波の恐れがある

下図は、気象庁の防災パンフレット『日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震—事前の備え—』に掲載されている千島海溝沿いの最大震度7クラスの地震による震度と津波高を示したものです。

この地域で発生する地震は、ほとんどの場合津波を伴います。揺れに対する備えだけでなく、津波への備えも忘れてはならないでしょう。今回の地震は「遠地津波」の危険性も再確認させました。遠地津波とは、遠く離れた場所の地震（遠地地震）が起こす津波が、はるか離れた場所に押し寄せる現象です。1960年のチリ地震では、約1万7000km離れた日本に高さ6mを超える津波が到達し、139人が犠牲になりました。観測技術が進んだ今でも、津波は地形によって予想以上の高さになる可能性があります。揺れが小さくても警報が出ればすぐ避難する—それが命を守る行動につながります。

#### 千島海溝沿いの地震



出所：気象庁『日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震—事前の備え—』

詳しくはHPへ▶

## 地震が起きたその時、家を浮上させいのちと家財を守る!

### 「エアー断震システム」

地震の揺れを感知すると瞬時にセンサーが作動。エアータンクから空気を送り込んで家を浮かせ、揺れを建物に伝えづらくします。

震度7の揺れを約1/30に軽減

詳しくはHPへ▶



▲国立研究開発法人 防災科学研究所での実証実験の様子

震度7を想定した住宅の浮上実験をご覧ください。

「AIR断震倶楽部通信」  
バックナンバーはこちらから▶

「エアー断震システム」  
詳しい資料請求はこちらまで▶

「エアー断震システム」  
の効果を体感してみませんか。  
関東に4カ所体験できる展示場があります。

バックナンバー▶

資料請求▶

展示会場▶

☆☆私たちは、地震災害から一人でも多くの命を守るのに本気です!!  
この思いにご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。  
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

《送信者》

株式会社 三誠AIR断震システム  
〒104-0033 東京都中央区新川1-6-1 2 M&Sビル3階  
TEL：03-3551-0272 FAX：03-3551-0273  
info@airdanshin.co.jp https://airdanshin.co.jp

※このメールの内容に関するご意見・ご質問はこちら